



# トライアル

令和元年 6月26日(水)  
四季が丘小学校 研究推進便り

6/18(火)に広島県教育委員会義務教育指導課の玉木昌知指導主事、広島県西部教育事務所の舞愼一指導主事、廿日市市教育委員会の岡寺裕史学校教育課長、福島千恵子指導主事、田村有樹子指導主事をお迎えし、廿日市市「学びの変革」推進協議会兼学力フォローアップ校事業第1回授業研究会が行われました。



まず、第6学年の国語科「新聞の投書を読み比べよう」の授業提案をもとに、「支援対象の児童に対する手立てが同様な課題をもっている他の児童にも有効に働いたか」という視点で協議を行い、舞指導主事より学力フォローアップ事業に係る指導・助言をいただきました。

次に、学力フォローアップ校である阿品台東小学校の実践報告では、校内研修の進め方について改善の具体をお話いただきました。

最後に玉木指導主事からはこれからの学びの変革と学力フォローアップ校事業をつなぎながら今後の方向性をお示しいただきました。田村指導主事からも同様に本市での学びの変革の推進に向けて、今年度のゴールイメージを明確にした取組についての確認がありました。

今回の研修を受けて以下の3点について共通認識をもち、日々の授業改善につないでいきたいと思えます。

## 1 つまずきの要因分析について

- ・何ができて何ができていないのか、どんなことに興味があるのか、学び方の特徴を捉える
- ・学びの系統性に基づいた分析を行う…3・4年、1・2年の指導事項までさかのぼって学びを見取る  
(子どもの学びは連続している。担任が変わっても学びのつまずきは解消されない。)

## 2 実態把握について

- ・複数の目で、さまざまな視点で行う
- ・各学級の対象児童の実態を共有する



できない・わからない児童への支援や指導  
が全ての子どもの手立てになるように

## 3 具体的な手立てについて

- ・「何のために」を明記していく
- ・～ができるよう・・・する、・・・させる (・・・の部分具体で)

**児童に身につけさせたい力がつくように 児童が自らできるようになる支援を**

本校は、学びの変革パイロット校での実践をつなぎながら、学力フォローアップ校事業の2年目の研究を組織的・計画的・継続的に進めていきます。

教科の本質的な学びをふまえた主体的・対話的で深い学びの実現と資質・能力の育成をねらいとした授業改善に全教職員で取り組みます。

そこで、授業改善に向けて学校として重点的に取り組む項目を設定します。

4月からの授業実践を振り返り、自分の授業スタイルの課題を捉えます。全体の傾向をもとに重点項目を決定し、1学期の残りの授業を行っていきます。1学期末には進捗状況について振り返りをしたものを使って研修し、2学期からの授業づくり、指導案作成につなぎます。



6/25(火)に、宮園小学校で四季が丘中学校区第1回教職員研修会が行われました。

1年生と6年生の算数科の授業が公開されました。

全体会では、「これからの時代に求められる教育と授業創り」についてのお話を聴きました。

何度も出てきた「メタ認知力」は、本校で育てたい資質・能力の1つです。

メタ認知とは「自己を理解する力」と「授業で学んだ教科の力を自分の力で再構築する力」の2つと考えられるそうです。つまり、客観的に自己の学びを見つめ振り返ること、また学んだことをどう生活に生かすかがわかり実際に活用する力ということです。その力をつけるためには、やはりカリキュラム・マネジメントは欠かせません。お配りしている「資質・能力の育成に係る年間指導計画」に新たなつながりを加筆しておきましょう。

後半では、資質・能力を身に付けるための学習場面と認知の深まりには、「教師に質問する」ことが必要であることを学びました。授業の終わりに「今日の勉強で質問はありませんか。」という問いに、自分の思いや考えを言える子どもを育てていきたいです。そのためには、子どもが「よどみなく学ぶ」ことができる授業が展開されること、また、子ども一人一人に合った手立てや支援を講じていく、寄り添っていくことが求められます。

PDCAサイクルのC(評価)とA(改善)を充実させていくことも大切であり、その手立てとして誤答分析を挙げられました。フォローアップ校事業で本校が取り組んでいる内容と密接につながるご指導をいただきました。授業研究の方向性はまちがっていません！自信をもって取り組んでいきます。



## がんばっています！ミニ研修

教頭先生を講師として、授業づくりについて学んでいます。特に発問についてのお話は目からうろこです。短く、分かりやすく、子どもの脳みそに響く発問を具体的に教えてくださいます。

発問を精選することができれば、教師が話し過ぎることはありませんし、子どもたちの学びがぶれることもありません。発問の大切さを痛感します。



キ リ ト リ

1学期ものこりあとわずかとなりました。2つの大きな研修会を受けて、自分の授業を振り返り、学んだことをどう使っていくかを記入し、学年でまとめて松田まで提出してください。締切 7月1日(月)

氏名 ( )